

「中国語教育学会」設立趣意書

近年、中国語教育は日本の外国語教育において、一定の地歩を確立したと感じられます。多くの大学で「英中仏独」の順に選択され、高校でも英語に次ぐ外国語科目となり、社会人の学習者数も着実に伸びています。しかし、教育の現場では、教育課程・教育内容・教材開発・教員養成等々、検討すべき問題が山積しています。もちろん、国内外の中国語研究の発展はめざましく、その成果を吸収して、中国語教育の水準は着実に向上してきましたが、研究者・教育者個人個人の努力によるものが主で、学界あるいは学会として中国語教育の諸問題を正面から取り上げる機会は、かならずしも十分とはいえませんでした。

このような状況の下で、全国の中国語教育従事者が集う「全国中国語教育協議会」の設立準備会が1996年秋から活動を始め、1997年10月に正式発足しました。この会は、大学・高校・専門学校・講習会・個人教授等を網羅し、中国語教育者が相互の経験交流を通じて自らの向上を求めるとともに、中国語教育の普及と発展を目指したものです。

その後5年半を経て、会員数もおよそ230名を数えるに至り、2002年3月の第3回大会で、同年4月1日からの「中国語教育学会」への移行を議決しました。これまでの成果をふまえ、中国語教育に従事する者が、今後より一層の研鑽と交流を深めるとともに、わが国における中国語および中国語教育の研究と、中国語教育の普及発展をはかることを学会設立の目的としています。

今回「中国語教育学会」発足にあたり、中国語教育界に広く呼びかけて、同志を募ることにいたしました。今後、全国大会やその他研究会での研究発表、会報の発行、会誌『中国語教育』の刊行等、会員規模と活動項目を拡大し、社会的に広く認知されるよう活動していきます。

中国語教育学会

学会役員名簿（2002年4月、50音順）

会 長：輿水 優
代表理事：大川完三郎、中野 貞弘、西川 優子、依藤 醇
理 事：相原 茂、榎本 英雄、遠藤 光暁、大崎 雄二、郭 春貴、
加藤 晴子、小寺 研、高橋弥守彦、武信 彰、陳 文芷、
平井 和之、平井 勝利、古川 裕、守屋 宏則、山田 眞一、吉田 隆司